

News

<http://www.jmdp.or.jp/>

<http://www.donorsnet.jp/>

日本骨髓バンク

検索

- 発行2017年12月6日 公益財団法人 日本骨髓バンク
 - 発行責任者 齋藤英彦(理事長)
 - 編集責任者 松園正人(事務局長)
- 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-19 廣瀬第2ビル7F
TEL 03-5280-8111 FAX 03-5280-0101

CONTENTS

- 2・3 …… 特集1 **広がる・骨髓バンク
パートナーシップの和** 名古屋編
- 4・5 …… 特集2 **語りべからのメッセージ**
- 6 …… 日本骨髓バンクの現状／トピックス
- 7 …… ご寄付のお願い／遺贈のお問い合わせが増えています／
BANKO'S DAY／プレゼント
- 8 …… 住所変更手続きのお願い／メールアドレス登録のお願い

日本骨髓バンクの現状 ※2017年10月末現在

登録者数
47万9,966人

移植数
21,307例

INTERVIEW



骨髓バンク
公認ソング

～すべての命へ～

by 骨髓バンク
《命》応援団

▼あべ静江さんとBSJメンバー「骨髓バンク《命》応援団」



今年7月、新しい骨髓バンク応援ソングが誕生しました。歌手・女優として活躍のあべ静江さんと“勝手に応援”して世の中を元気にするアイドルプロジェクト・BSJプロジェクトメンバーがユニットを結成。あべ静江さんにお話を伺いました。

歌手・女優 **あべ静江さん** プロフィール

1973年「コーヒーショップで」で歌手デビュー。続く「みずいろの手紙」も大ヒットし、自身の代表作となる。映画「トラック野郎 爆走一番星」やテレビドラマなど女優としても活躍。日本歌手協会理事、松阪市ブランド大使、みえの国観光大使も務める。

BSJプロジェクト プロフィール

2015年1月23日結成。愛知県や名古屋市、赤十字などさまざまなチャリティー活動を通して、世のため人のために応援活動を展開し、心も磨いていくプロジェクト。BSJは「BOLD STEP JUMP」の略。メンバーは8歳から25歳まで計21名で活動中(10月25日現在)。



▲太田美知彦さん



BSJプロジェクト プロデューサー 加藤タクヤさん▲

あべ静江さんとBSJのコラボレーションのきっかけは？
「狙いは年のあるユニット。BSJのチャリティー活動精神があべさんのライフワークとも一致しました」

この歌はみんなに歌ってほしい。だけれどが勇気づけられる歌だと思えます。いつかある日、日本中の会場をつないでこの歌をみんなで歌い、一斉に同時配信できたら、すばらしいと思いませんか？それが今の私の夢です。まだ生まれたばかりの芽ですが、この応援団ユニットは大きく育っていきそうな気がします。

みんなが歌う応援歌に
「命」とは、すぐにコンサート仲間の太田美知彦さんに声をかけ、仲間に入ってもらいました。太田さんは数多くのヒット曲で知られ、白血病で亡くなった歌手・本田美奈子さんの「つばさ」の作曲者でもあります。3人で詞を書き始めました。が「命」を「ひかり」と表現したのは太田さんでした。かけがえのない命への3人の思いが1つになって生まれたのがこの「すべての命へ」です。

「命」とは
そんな中、縁あってBSJプロジェクトプロデューサーである加藤タクヤさんを通じてBSJのラジオ番組に出演し、これをきっかけに「骨髓バンクの応援歌を作ろう」と意気投合しました。

きょう。でも1人では笑顔になれない。その頃結成したファンクラブの中にAEDで助かった方と骨髓バンクで移植を受けて元気になった方がいました。命をもう一度授けられた人たちと出会って、「救える命がある」ことを再認識しました。「命」というテーマはこうして私の心に根付きました。



救える命がある
思い起こせば6年前がターニングポイントでした。親しい人や身近な人の命との別れから、「命」を見つめるようになりました。自分は残された人生、笑顔で生



特集1

広がる♡ 骨髓バンク

名古屋編①

パートナーシップの和

▼大須万松寺献血ルームの「春ちゃん原画パネル展」



絵本「春ちゃんは元気です」

幼くして2度の移植を乗り越え、白血病と闘いぬいた4歳の少女の実話に基づいた絵本。作者は実父・松田のぶおさん

日本における公的骨髓バンクの前身となる全国初の民間骨髓バンク(東海骨髓バンク)が1989年発足し、1991年日本骨髓バンク設立へと引き継がれました。その歴史を刻む愛知県名古屋市で、今新しい潮流が生まれています。その最前線を紹介します。

献血ルームが熱い!

名

名古屋市で2つの献血ルームで絵本「春ちゃん原画パネル展」が開催され、大盛況となりました。企画したのは愛知県赤十字血液センター。今年1〜2月開催の大須万松寺献血ルームではBSJプロジェクトメンバーがPRを盛り上げました。同じビルにBSJシアターがあることをきっかけに、BSJの献血・骨髓バンクの応援活動がスタート。

▼献血ルームゲートタワー26の「春ちゃん原画パネル展」



以来、近隣の栄献血ルームでもBSJの応援活動が行われています。続いて、今年4月にオープンした献血ルームゲートタワー26でも、10月の骨髓バンク推進月間の企画としてパネル展を開催。ガラス戸の展示スペースがまるであつらえたような原画パネルのギャラリーに変身。献血ルームでのパネル展が可能になった理由は?「献血に来ていただく方に喜んでもらうにはどうしたいか。春ちゃんの原画パネルはぴったりだと思いました」と語る献血ルーム担当者の吾郷太起さん。「思いついたらいかに実現するかを考えて即実行します」と早くも次の構想にとりかかっています。今回のパネル展も、こうした柔軟な発想と行動力の賜物といえます。

献血・骨髓バンクを貫く赤十字精神



大西 一功さん
愛知県赤十字血液センター 所長

愛

地球博記念公園駅の北の高台にあります。若い人たちを巻き込んだ献血ルームでの新しい動きの背景には、豊かな発想力と実行力を育む環境があつたようです。「すべての命へ」(前ページ参照)は、まず愛知県赤十字血液センター公認ソングとして発表され、続いて日本骨髓バンク公認ソングへとつながっていきました。

大西一功さん(愛知県赤十字血液センター)所長にお話を伺いました。「当血液センターはNPO法人や県・市と共に、日赤のmission statementにあるように自戒の意も込めて、無関心に陥ることなく常に想像力を持って「骨髓バンクドナー登録の支援に努めていきます。またドナー登録をお考えのみなさまには、白血病患者さんにご協力をぜひともお願いしたいと思っております」



県の目標が牽引力に



知県の現医療計画には「新規ドナー登録年13000人」の目標が盛り込まれています。これをベースに、県保健所や保健所設置市(名古屋、豊橋市、岡崎市、豊田市)では、看護学校での講演会や企業・ご当地イベントでの献血併行ドナー登録会を企画するほか、愛知県赤十字血液センター、各献血ルーム、NPO法人等と協力した普及啓発活動を進め、ドナー登録推進を図っています。

「近年は、この数値目標達成にはほど遠かったのですが、県内の関係機関と協力を重ね、昨年度ようやく目標をほぼ達成できました」と語る榎原徹さん(愛知県健康福祉部保健医療局医薬安全課長・写真右から2人目)。

献血と骨髄バンク2つの業務を一つの部署で実施する愛知県の体制が機動力を高め、具体的な目標設定が県内のドナー登録推進の牽引力となったことが伺えます。



▲第1回ラブ&ピース! 献血&骨髄バンク登録応援! ドリームフェス(5月14日開催)

名古屋編②



コココとスーズ



▲啓発ラブ動画

名古屋市のキュートなPR企画



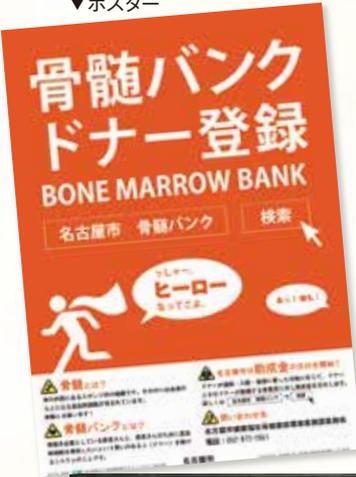
10月の骨髄バンク推進月間に合わせて、名古屋市の骨髄バンクPR企画が公開されました。1つはドナー登録呼びかけとドナー等助成金交付事業の啓発用ラブ動画。そして名古屋市立工芸高等学校グラフィックアート科の生徒たちがデザインしたポスターとクリアファイル。



広がる骨髄バンク

パートナーシップの和

▼ポスター



名古屋市の取組みの背景には、2016年11月白血病で亡くなられた市議会議員・日比健太郎氏の遺志と、それを引き継

ラップ動画は18歳から34歳をターゲットとして、YouTubeで動画を視聴する前に表示される他、若者が観る映画の劇場CMとしても放映されます。コアなターゲットへ確実に動画のメッセージを届けることが狙いです。アイキャッチとなるポスターは、現在市内のコンビニ(ファミリーマート全店)や薬局などで貼り出されています。クリアファイルには骨髄バンク公認キャラクターのコッコとスーズが「骨髄バンク・コッスー」に生まれ変わって登場。「骨髄バンクかあ...気になるけど、よくわからないなあ...」とつぶやく青年に答えるストーリーがマンガでわかりやすく描かれています。市内の高校に通う3年生約2万2500人全員に配布されました。



▲林圭子さん(左)、吉永あゆみさん(右)



▲「骨髄戦隊・コッスー」クリアファイル

いた議員の方々の強い熱意がありました。それがドナー等助成金交付事業と若年層向けの斬新なPR企画につながっていったとのこと。

「高校生による啓発資料のデザイン制作は、来年も実施する予定です」と語る担当者の林圭子さん(名古屋市健康福祉局健康環境薬務課係長と吉永あゆみさん(同環境薬務課技師)。みずみずしい感性で若い世代に骨髄バンクの認知が拡がっていくことが期待されます。なお、市芸高校の生徒が作成したデザインは、起用されなかったものも含め、献血ルームゲートタワー26のギャラリーで一般公開されました。

点から面へつなぐボランティア



水谷 久美さん
あいちの会



そして市、赤十字、ボランティアが一体となって骨髄バンク活動を展開する例は全国でも珍しいといえます。そこに至る道は決して簡単ではなく、意識を持つ人たちの点と点とのつながりから、組織をまたいだ面の活動へとつながっていった経緯が伺えます。それを支えているのは、行政と赤十字の橋渡しや情報交換の要となっている地元ボランティア。

認定特定非営利活動法人あいち骨髄バンクを支援する会(あいちの会)事務局長水谷久美さんにお話を伺いました。「同じ目標を持っている人たちが同じ方向を見て前に進む。そこに信頼関係が生まれ、目標を達成することができる。それだけ何ができるかをいつも考えています。もう1つ忘れてならないのは患者さんの存在。「移植を受けて元気になっても新たな悩みを抱える場合があります。患者会を通じて心に寄り添い、患者さんがまた前を向いていく姿がモチベーションにもつながっています」とのこと。



語りべからのメッセージ

移植・提供 体験談



ことう ていべい 後藤 哲平さん(弟)

ことう ちえい 後藤 千英さん(姉)

香川県在住

2012年1月ドナー登録。2017年6月骨髄提供。学生時代は台湾に留学。中国語と英語を駆使して海外取引にて活躍する国際ビジネスマン。

17歳で骨髄異形成症候群を発症。34歳のとき骨髄バンクを介して骨髄移植を受ける。現在仕事のかたわら、講演会や患者向けセミナー等で自らの体験を語る活動を行っている。

後藤千英さんと哲平さんは姉と弟。骨髄バンクを介して、2012年6月に千英さんが移植を受け、5年後に哲平さんが提供しました。その貴重な体験を語っていただきます。

◆◆◆◆ 発症から移植までの10数年間



バスケに明け暮れていた高2の秋頃、手の甲が異様に腫れて病院へ。「骨髄異形成症候群(MDS)」と告げられました。この病気は発症しても症状が悪化しない限り、薬もなければ治療方法もなく、血液検査だけの経過観察が10数年続きました。3代になった頃、登山で動悸とひどい頭痛がして、診察を受けたところ再生不良性貧血に近いタイプのMDSとわかりました。当面の治療方法は輸血だけ。医師からは「骨髄移植しかない」と。兄と弟のHLA検査の結果、2人は同じ型だったのに私とは不一致で、とてもショックでした。

◆◆◆◆ 移植の決断は父の言葉

リスクを含めてありとあらゆる情報を集め、最後に背中を押してくれたのは父の言葉です。「人生には何度か勝負しなければならぬ時がある。千英には自分で決断する力がある。3度のセカンドオピニオンを行い、大阪の移植病院に決めたのは直感でした。病気の悩みを分かち合うことができたのは、同じ病棟で同年代の患者さん(私と2人だけ)。そして情報交換できる患者さんのブログサイトでしたね。

◆◆◆◆ 移植後の闘い

1月に骨髄バンクに患者登録してすぐに適合ドナーが見つかり、移植を受けたのは6月。その間に卵子保存を行うことができました。移植後、一番つらかったのは薬が飲めないこと。口やのどの粘膜がただれて水も飲めない。そのつらさは想像を絶するものでした。慰めてくれたのは義理の姉が作ってくれた家族のアルバム。涙があふれました。移植前処置の直前に、担当医師が「自信と経験があるから大丈夫」と言い切ってくれたことも支えになりました。それが信頼関係につながり、患者にとってすごく大事なことだと、折にふれて医師の方々に話しています。ドナーさんからいただいた造血幹細胞が体に生着して新しい血液が造り出されると、苦し



▲家族のアルバム

◆◆◆◆ 最上級の「ありがとう」

今は事務職から通院しやすいよう営業職に変わり、病気だったことが信じられないほど元気に活動しています。小さい会社ですが「ドナー特別休暇制度」ができました。ほかの事業所にも広がっていくとうれしいです。今病気が聞いている患者さんへは「上がらない雨はない」と伝えたいです。苦しいことがあってもいつか必ず嵐はやむ時が来ることを信じてほしい。ドナー登録してくれた方には、もしも適合したら一度は話を聞いてほしいと思います。命を分けてもらったことへ、最上級の「ありがとう」を探しているけれど、ほかに言葉が見つからないです。

◆◆◆◆ 1回目の提供は姉のご恩返し



ドナー登録したのは姉の移植がきっかけです。それまで献血したことがなかったけれど、献血ルームに行くと登録しました。忘れかけていた頃、骨髄バンクから連絡がありました。うれしかったです。妻は骨髄バンクのことを初めて知ったばかりでしたが、快く賛成してくれました。両親や兄姉も賛成してくれましたが、後で聞くところ不安はあったようです。適合通知を受け取ったちょうどその頃、友だちから留学時の先輩が議員の奥さんになっていて、ご主人が白血病で亡くなったと聞きました。その方が名古屋市議会議員の日比健太郎さんでした(前ページ参照)。同じ35歳で小さい子どもの年もほとんど一緒だったことから、偶然とは思えないつながりを感じたことを鮮明に覚えています。

適合してから提供に至るまでの間、自分のフェイスブックに投稿しました。もちろん提供日時や場所等が特定されるような情報は掲載しないというルールを守って。たくさんの方から「いいね!」をもらいました。何人かが「自分もドナー登録しました!」と投稿してくれてうれしかったです。今はまだ珍しいから「すごいね」と言われるのであって、こういうことが献血と同じように当たり前になってほしいと思います。僕にとっても、1回目の提供は移植を受けた姉のご恩返し。2回目为本当の意味での善意の提供で、プラスになると思っています。その機会がくることを楽しみにしています。



かわしま めぐみ
川島 恵さん

埼玉県在住

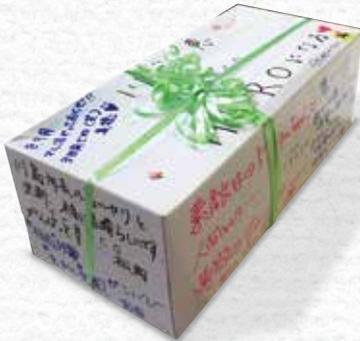
2011年11月ドナー登録
2017年8月骨髄提供

患者さんに感謝

骨髄バンクに登録したのは献血ルームで、骨髄バンクの方が1人1人に必死に登録を呼びかけていたのを覚えています。サインをした時、何度も「ありがとうございます」と喜んでいて、本当にドナーが足りないんだな...と感じました。登録から6年半後に適合通知を受け取りました。コーディネーターさんから改めて提供の意思の確認や、これからの日程など詳しくわかりやすく説明していただき、とても安心して提供の日まで待つことができました。

入院の前日に職場の仲間からプレゼントをもらい、病院に着いて開けてみたらビックリ。ティッシュボックスにみんなからのメッセージが書いてあり、うれしくて涙が止まりませんでした。病院の先生やスタッフのみなさんとても親切で、安心して提供に臨めました。提供後は想像以上に体が動き、仕事もすぐに復帰することができました。コーディネーターさんと最後に別れた時は寂しい気持ちで、また提供できる時が来たら同じコーディネーターさんと同じ病院が良いなと思うほど、提供できたことに喜びを感じました。

今回提供させていただいたことによって、改めて白血病という病気に関心を持ち、移植を必要と



▲職場の仲間からのメッセージ入りティッシュボックス

特集

MESSAGE

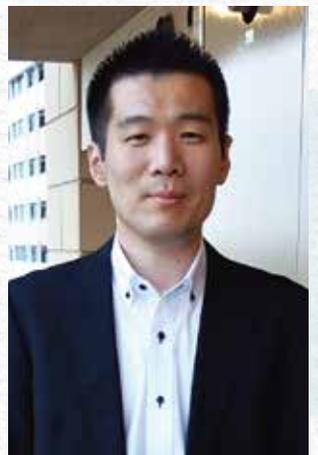
語りべからのメッセージ

ドナーさん 体験談

してドナーを待っている人がこんなにもたくさんいるということがわかり、1人でも多くのドナー登録が必要だということを知りました。

今、私は仕事も運動も楽しむことができます。健康な体に感謝できたこと、人は助け合って生きてゆくことが大切なこと、骨髄移植はたくさんの方の協力があってできること、すべて患者さんに教えていただきました。本当にありがとうございます。1日でも早く元気になって、たくさん笑顔を見せてください。

この体験を語っていきます



なかむら ひろかず
中村 紘和さん

東京都在住

2016年2月ドナー登録
2016年7月骨髄提供

勤めていた会社の献血会場で一緒にドナー登録できる機会があったことが、ドナー登録をしたきっかけです。その時は「そうそう適合するものではないし、献血時に一緒に登録できるのであれば負担も少ないか」と、簡単な考えでした。しかし、そんな私の考えは、ちょうど5カ月後に受け取った適合通知によって一変しました。予想外に早い適合通知。正直、ドナー登録をした自覚が薄れていた私にとっては、驚きでありませんでした。受け取った書類を確認し、さっそく家族と勤め先の上司に相談。幸いにして周囲の理解もあつたことから、すぐに提供することに決めました。また、勤め先に「ドナー特別休暇制度」があつたことも大きな後押しになったと思います。もしこの制度がなかったら、提供の意思に多少なりとも影響があつたと思います。

提供を決めた後の術前健康診断を受けていく過程で、完全に私の不摂生が原因で血液検査に異常値が出てしまいました。その時は再検査を実施することで事なきを得ましたが、同じようなことで提供が遅れたり、中止になるようなことがあつてはならないと思い、骨髄提供の日まで健康管理にはとくに気を使いました。

その後は問題なく提供が終了し、普段通りの生活に戻っています。変わったことといえば、周りの方に少しでも骨髄提供に興味を持っていただけるよう、この貴重な体験を語っていく機会が得られたことではないでしょうか。私の骨髄提供に携わった方々と、とくにお世話になつた担当コーディネーターの方に感謝申し上げます。ありがとうございます。

日本骨髄バンクの現状

非血縁者間骨髄移植および末梢血幹細胞移植の状況 2017年9月末現在

提供者の状況

※採取されたものの移植に至らなかった8例と、翌月移植予定のケース1例が含まれています。

21,211件

コーディネート状況

(1992年から2017年9月までの累計)

713,200件

ドナー登録者累計数

283,455件

HLA適合報告ドナー人数

102,061件

確認検査済みドナー人数

24,573件

最終同意面談人数

21,211件

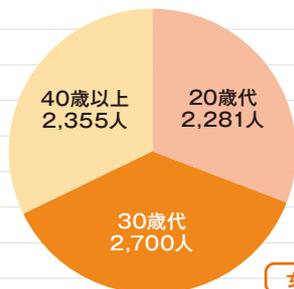
採取実施人数

※海外ドナー187人を除いた国内の数

年齢・男女



男性 13,875人

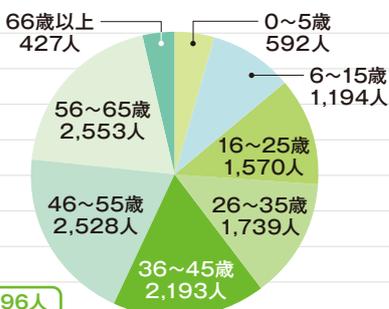


女性 7,336人

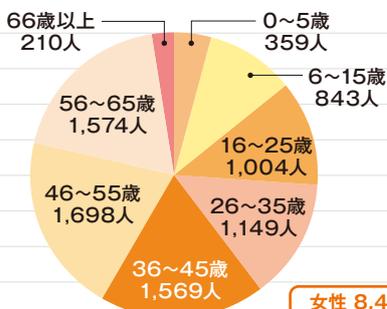
移植患者の状況

21,202件

年齢・男女



男性 12,796人



女性 8,406人

トピックス



ドナー特別休暇制度導入の企業や団体が460を超えました

骨髄バンクドナーは、提供までに合計8回前後医療機関へ足を運んでいただきます。検査や面談・入院等の日数を、ドナー自身の有給休暇を使うのではなく、勤務先が特別休暇として認めるのが「骨髄バンクドナー特別休暇制度」です。この制度はドナーの方の肉体的・心理的な負担の軽減に役立ち、現在460を超える企業や団体が取り入れています。当法人ホームページをご参照ください。

http://www.jmdp.or.jp/help_us/support/post_81.html



2017/18 Vリーグが10月21日に開幕

10月21日のプレミアリーグを皮切りに「2017/18 Vリーグ」が開幕しました。骨髄バンクはVリーグ機構から2006年以降、社会貢献活動の一環としてご支援をいただいています。今シーズンは来場者の方へVリーグオフィシャルマスコット「ブイリー」のステッカーを配布しています。裏面には骨髄バンクからのご願いが記載されています。試合会場でしか手に入らない限定ステッカーを是非ゲットしてください。



表面



裏面



ドナー助成制度を導入する自治体が318になりました

骨髄バンクを介して、骨髄または末梢血幹細胞を提供したドナーを対象に助成金を支給する制度を導入している自治体が、全国で318になりました(2017年11月15日現在)。この制度により、提供のために休むことで収入が減ってしまうという経済的な負担を軽減できます。経済的な理由で辞退する人が減ることで、患者にとっても移植のチャンスを増やすことができます。山形県、埼玉県、岡山県では県内全市町村で助成制度が導入されています。制度の内容は各自治体によって異なりますので、直接お問い合わせください。当法人のホームページにお問い合わせ一覧を掲載しています。

http://www.jmdp.or.jp/donation/about/post_202.html



骨髄バンク公式Twitter (ツイッター)、はじめます!

新たな情報発信の場として「骨髄バンク公式Twitter」を始める予定です。移植の現状など、重要な情報はもちろんのこと、若い世代の方を中心に骨髄バンクを身近に感じてもらえるようなツイート(投稿)をしていく…予定です! ただいま作成中!

ご寄付のお願い

骨髄バンクの運営は、国庫補助金などの公的資金のほか、患者さんの負担金や皆さまからのご寄付によって成り立っています。当法人へ寄付した場合、税制上の優遇措置が受けられます。皆さまの善意をお寄せください。

寄付金の使途 提供・移植に向けての連絡調整、ドナー登録会の開催、普及啓発用の資料制作等の費用として活かされています。

移植を待つ患者さんのために・・・ 貴重なご寄付で可能になるのは

たとえば

- 3,000円でパンフレット200部
- 1万円でポスター200枚
- ドナー登録会の実施
- コーディネーターによる連絡調整

賛助会員入会のお願い

骨髄バンク賛助会員とは、毎年1回、定額（個人1口10,000円、法人1口100,000円）のご寄付を継続して行なっていただく制度です。専用振込用紙（ゆうちょ銀行）にご記入いただくか、当法人募金担当にご連絡いただくことで、賛助会員として登録します。

骨髄バンク社会貢献型カードのご案内

クレジットカードによるお支払額の一部が骨髄バンクに寄付される社会貢献型カード（骨髄バンクNICOSVISAカード）。寄付金なしの一般会員と、毎年3,000円を寄付するサポーターカード、毎年1万円を寄付する特別会員があります（初年度クレジットカード年会費無料）。

入会申込書は募金フリーダイヤルへご請求ください。

1 郵便振替

ゆうちょ銀行・郵便局での手数料が無料になる専用払込取扱票をお送りします。

2 銀行振込

まずは銀行間での手数料が無料になる専用振込用紙をお送りします。

3 お電話で募金（クレジットカード）

カードをお手元にご用意のうえ、お電話ください。
お名前・ご住所・電話番号・カード番号・カードの有効期限・ご寄付の金額をお知らせください。

4 インターネットから募金（クレジットカード、楽天銀行、ポイント募金など）

①インターネットクレジットカード募金
http://www.jmdp.or.jp/help_us/ または

②楽天銀行（旧イーバンク銀行）
http://www.jmdp.or.jp/help_us/howto/bank.html
24時間入出金が可能な楽天銀行をご利用いただけます（手数料無料）。なお、事前に口座の開設が必要です。

5 口座自動引き落としによるご寄付

お持ちの金融機関から自動にご寄付の引き落としができます。資料をお送りします。

お問い合わせ・資料請求は下記へお電話ください。皆さまの温かいご支援をお待ちしています。
募金フリーダイヤル ☎ 0120-377-465（平日9:00～17:30）

遺贈のお問い合わせが増えています

ご自身の財産を家族に遺すだけでなく、社会に還元したいという思いで、財産の一部を応援する公益団体等に贈る「遺贈」をお考えの方が増えています。「骨髄バンクへの遺贈」は、移植を待つ患者さんのために役立てられています。人生最期の社会貢献として骨髄バンクへの遺贈をお考えの方は、上記の募金フリーダイヤルへご連絡ください。

Present クイズに答えて賞品をGET! ○の中に入る文字を当ててください。

Q. 新たな情報発信の場として「公式○○○○○○○○」をはじめの予定です!

A賞



5名様 あべ静江さん
直筆サイン入り色紙とCD
『すべての命へ』

B賞



5名様 松田のぶおさん著
絵本
『春ちゃんは元気です』

C賞



3名様 サントリー
伊右衛門280ml
1ケース(24本入り)
※サントリーピバレッジサービス(株)は飲料の社会貢献型自動販売機の設置で骨髄バンクを支援いただいています。

応募締切 **2018年1月11日(木)**
応募方法 **[PC・スマートフォン]**

<http://www.donorsnet.jp/news51/> にアクセスし、応募フォームに必要事項を記入の上、お申込みください。

[携帯] present@jmdp.or.jp宛に、件名「プレゼント応募」、必要事項(①クイズの答え、②郵便番号、③住所、④電話番号、⑤名前、⑥年齢、⑦ご意見・ご感想)を明記の上、ご送信ください。



住所や電話番号の変更、忘れていませんか？

*日本骨髄バンクでは登録内容の変更は受付けておりませんので、ご注意ください。

*住所などの変更、ドナー登録の保留や取消しの手続きは下記①～③の方法で可能です。

「保留」とは治療中・海外勤務・出産等の理由でご提供を希望しない場合に、一時的に登録を保留にすることです。

① ウェブサイトで



造血幹細胞移植情報サービス (骨髄バンク・さい帯血バンクポータルサイト)

<http://www.bmdc.jrc.or.jp/>

Search bar with "bmdc" and "SEARCH" button.



QRコードで
今すぐアクセス!

1. トップページ「骨髄ドナー登録者の方へ」から「登録内容変更ページ」を開き、ログイン画面でアクセスコード、生年月日、メールアドレスを入力し「認証」ボタンを押します。
※アクセスコードは、今号(51号)の宛名台紙および登録確認書等に印字されています。
アクセスコードがわからない場合は、②または③で手続きできます。
2. 1で入力したメールアドレスに届く専用URLにアクセスし、ワンタイムパスワードと生年月日を入力してログインします。
3. 変更する項目を入力・確認して完了!!
※上記の方法で現在の登録内容も確認できます。

② 電話で

日本赤十字社ブロック血液センターまでお問い合わせください。*電話受付は平日(月～金)の9:00～17:00です。

■北海道ブロック血液センター 011-613-6683 管轄地域 北海道	■近畿ブロック血液センター 072-643-1173 管轄地域 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
■東北ブロック血液センター 022-354-7083 管轄地域 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	■中四国ブロック血液センター 082-241-1614 管轄地域 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県
■関東甲信越ブロック血液センター 03-5534-7534 管轄地域 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、新潟県、長野県	■九州ブロック血液センター 0942-31-8974 管轄地域 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
■東海北陸ブロック血液センター 0561-85-4298 管轄地域 岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、富山県、石川県、福井県	

③ 献血ルームで

最寄りの献血ルームの受付窓口で、登録内容に変更がある旨をお伝えください。

その場で用紙にご記入いただけます。後日、お電話で変更内容について確認させていただく場合があります。

※献血ルームの所在地、受付時間等は、上記1のウェブサイトのトップページから「一般の方へ」→「ドナー登録したい」を選び、「登録受付窓口」をご覧ください。

メールアドレスの登録をお願いします

- ▶ドナー登録者のみなさまには、ご希望の方に年2回(7月と12月)骨髄バンクニュース発行のお知らせメールを送付します。12月号はドナー登録者全員のみなさまに郵送でお届けします。
- ▶骨髄バンクニュース発行のメールによるお知らせを希望する方はメールアドレスの登録をお願いします。



造血幹細胞移植情報サービスQRコード

ご注意

- ※ログインには、今号(51号)のバンクニュース宛名台紙または登録確認書等に記載されたアクセスコードが必要です。
- ※メール配信を受け取られた方にも、年1回は郵送でバンクニュースが届きます。
- ※このメールは日本骨髄バンクのメールマガジンとは異なります。

メールアドレスの登録方法

造血幹細胞移植情報サービス
(骨髄バンク・さい帯血バンクポータルサイト)

<http://www.bmdc.jrc.or.jp/>

「ドナー登録者登録内容変更ページ」

「登録内容変更ページ」にログイン後、
「**■バンクニュース送付について メールでの配信受け取る**」を選択してください。

(ドナー情報変更ページへ)